

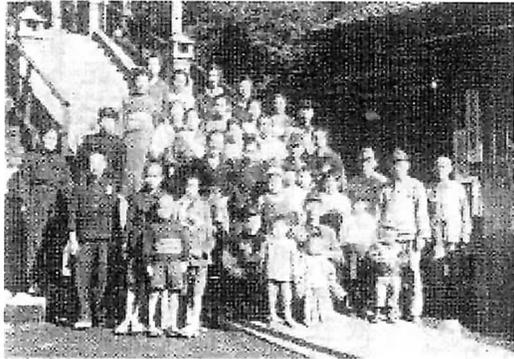
## 隣組と回覧板(その一)

左の一枚の写真は昭和17年10月に撮影したものです。場所は滝山稲荷、石段に並ぶのは隣近所の人々。昭和17年と言えば、太平洋戦争が始まった翌年、南太平洋ではガダルカナルなど日米の血戦が連日繰り広げられていました。まだ東京は本格的な空襲もなく平静でした。

しかし、服装は戦時色で女性はモンペ、男性は警防団の服に戦闘帽、更に女性は「大日本国防婦人会」と記された襷を肩から掛けられています。ここに写っている方々は所謂『隣組』の人達です。私の父母妹弟もこの中にいます。

さて『隣組』なる名前、何か事ある時、近隣家族が団結して対処する組織で、責任者は組長、1つの単位は十数軒でした。この『隣組』相互の連絡や上からの指令などの伝達に役買っていたのが、『回覧板』です。現在のようにはテレビなど無く、ラジオは有りましたが、バラエティーに富んだ内容では有りませんでした。

トントントンカラリと『隣組』まわして頂戴「回覧板」♪と言う歌もでき、両者は戦時中に出来た大きな産物です。



昭和17年当時の隣組

## 隣組と回覧板(その二)

さて、今回のテーマ『隣組』は戦時下の国民総動員体制の末端組織として、昭和14年に内務省が「家庭防空隣保組織要綱」として、更に翌15年にこれを制度化するため全国一斉に公布されました。

要はこれから起るであろう空襲に備え、国民の意識向上にこの制度を設けましたが、戦争が終わった後、昭和22年ポツダム政令により廃止されました。

昭和18年頃 隣組の防空演習  
(現東中野5丁目滝山稲荷付近)

もうひとつのテーマ『回覧板』はどうか。戦時中、配給や防空演習等の通達を、隣組を通じて回覧した告知板で、昭和14年東京市が全国に先駆けて実施しています。

以上二つのテーマ「隣組」は消えましたが「回覧板」は今なおその役目を果たしています。しかしIT化が日進月歩し、各自が一台パソコンを所有する時代がもう目前に迫っている現在、各自が毎日メールを見るようになれば「回覧板」の役割も無くなるのではないのでしょうか。

しかし、どちらにしても町にとっては大事な要素、それぞれ長所を活用し、町の運営に寄与すればと思います。

